

< 地場産農産物の加工・販売を目標としている事例 >

## 朝宮茶を共同で加工・販売する

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	滋賀県 甲賀市信楽町寺谷 <small>こうかししがらきちょうてらだに</small>			
協定面積 28.1ha	田	畑 (100%) 茶畑	草地	採草放牧地
交付金額 202万円	個人配分			0%
	共同取組活動分 (100%)	担当者活動経費	2.2%	
		農用地の維持管理 (防霜ファン管理)	97.8%	
協定参加者	農業者 31人			

### 2. 取組に至る経緯

本集落は、日本五大銘茶の一つである朝宮茶<sup>あさみや</sup>(1250年に伝教大師(最澄)が中国からお茶の実を持ち帰り植えられたことが始めとされる)の主産地で、寒暖の激しい気候と傾斜を活かし地域ぐるみで安定生産を図っている地域である。

しかし、農地は作業効率が悪い急傾斜地に多いため、農業者の高齢化や後継者不足に伴い茶の栽培が過重労働となり、作業が円滑に進まない状況になっていた。

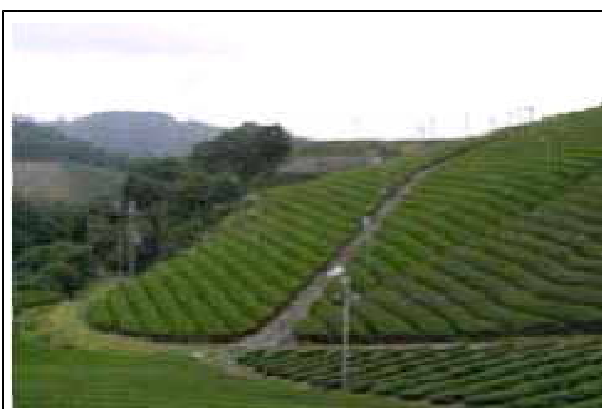
### 3. 取組の内容

気候・風土に適した品種の導入や、県の施肥基準による茶栽培により、環境に配慮した持続性の高い農業生産を検討している。栽培および加工技術の向上を図り、更なる高品質茶の生産を目指すため、共同製茶工場を積極的に活用することにした。

これまで個別に対応していた荒茶加工では、品質にムラがあったため、これを共同で荒加工することにより品実の均一化等を図り、高品質の茶製造を通じた「近江朝宮茶ブランド」を定着させ、売上の向上により経営の安定化を図り、担い手の育成を図っている。また、集落内で茶葉を持ち寄り、共同で新たな茶加工に取り組み、農協や道の駅で販売することを計画中である。



共同作業による草刈り

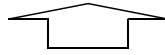


茶園の風景

[ 集落の将来像 ]

農地（茶園）は、作業効率が悪い急傾斜地に多いため、茶の栽培が過重労働になってきている。また、農業者の高齢化や後継者不足に伴い、作業が円滑に進まない状況である。

そこで、気候・風土に適した品種の導入や、県の施肥基準による茶栽培で、環境に配慮した持続性の高い農業生産を検討している。また、栽培および加工技術の向上を図り、更なる高品質茶の生産を目指すため、共同製茶工場を積極的に活用し、同品質の茶製造を行うことにより「近江朝宮茶ブランド」を定着させる。

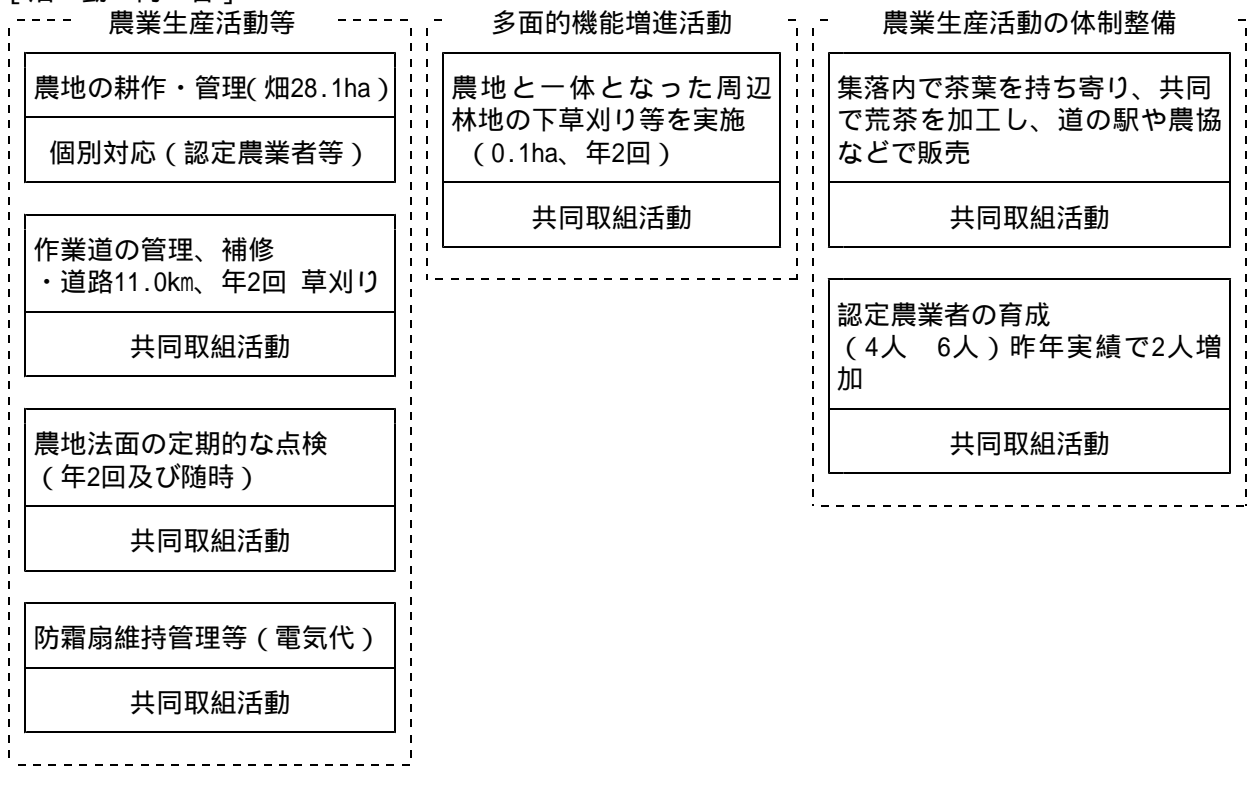


[ 将来像を実現するための活動目標 ]

農業後継者の育成を早急を実施し、担い手確保に向けた取り組みの検討を行う。

作業効率が悪い農地（茶園）の基盤整備の検討を行い、乗用機械やレール式機械の使用可能な茶園への整備を検討する。

[ 活 動 内 容 ]



4 . 取組による変化と今後の課題等

農道整備を共同で行うことにより、共同活動の意識が高まるとともに、作業の効率化が図れた。

後継者不足や高齢化により、作業の効率化を図るとともに、茶価の低迷により不安定な収入の安定を図るため、農協や道の駅での販売により経営の安定を図る仕組みづくりが必要である。

[ 平成20年度までの主な成果 ]

作業道を整備していることにより、作業の効率化が図れた。(当初11km、目標11km、H20実績0.3km)

共同製茶工場で製造した茶が品評会で上位入賞した。

認定農業者の育成(当初4人、目標5人、H20まで実績6人)